

問に答ふ

問

水彩畫の乘一たび世に出てより、これに似たりたる種々なる畫法手引草の類數多出版されたり。右は何れも一通り目を通し置かば利益多からんと思へど如何のものにや

尾張畫庄生

答

從來出版されしものには、格別新しき説も認めず、其あるもの如きは、水彩畫の乘其儘にて、唯其文字を前後させしに過ぎず。水彩畫の練習は眞面目の問題にて、奇術妙法のあるべきやうもなければ、何れも五十歩百歩のみ、廣く見るの必要なからん。尤も技術の進歩に伴ひ、研究上多くの意見を參考とする場合は別なりと概して是等の類書は、其説く處一致せず、時には前人の足跡を踏襲するを耻ぢて、ことさらに異説を立て、讀者を迷はすものなきに非れば、初學の士は寧ろ己れの信ずべき一書に辿りて、他を見ざる方却て益多かるべしと思ふ。

本紙の進歩

□本誌は片手間仕事、萬事不行屈勝であるに不拘、發行部數も豫定より増し、今では經濟上の方面も多少利益のあるべき見込がつかました。これ全く讀者諸君の御厚意と、深く感謝致します。

□老練なる雜誌業者は、本誌創刊の際我々か戒めて「雜誌が少し賣れ出したとて價を下げたり、改良といふて金をかけてはいけぬ、他日賣行の減つた時に苦しまねやう用意せればならぬ」と申されました。

□これは一應尤の事、何事でも盛衰は免れませんか、其時の用意を致して置くは賢いことに相違ありません。

□乍併吾々は此雜誌をもつて讀者諸君の共同物とも思つておます。夫より得たる利益は、讀者讀者へ配當するのが至當であらうと思ひます。且我等がかゝる決心を以て此雜誌を編輯してゆくなれば、必ず讀者諸君が本誌を棄て給ふまじと固く信ずるのであります。

□さて其配當法は、讀者多數の御所望により、毎號の寫眞版のうち其一葉若くは二葉

を廢して、特に主任天下藤次郎の手になる風景スケッチの彩色版（石版或は原色版）を一葉加へます。〔着色版は寫眞版に比して四倍の費用を要します〕猶追ては不殘彩色版にする答です。

□前記スケッチは、初學の方の參考になるやうに、筆者自ら一々着色の順序を記して寫生の場處、季節、時間等、可成精しく説明致す考です。

□時には、他の水彩専門家の筆をも交へます。又御寄稿の寫生論中にて、傑出せるものがあつたら登載する積りです。

□右は、みづゑ第五より實行の考で、専ら準備中であります。

□本誌は以上の如く、利益あれば必ず諸君に配當致しますから、何卒永久に御愛讀あらんことを希望致します。

▲本誌の口繪はウオルカア氏の、筆で秋の落日を寫したものであります、全體が暖かなる黃褐色で調子をとつてあります。この繪に於て見るべきは其しとやかな靜かな調子でありながら筆に強健な力が含まれてあ